

普賢菩薩ゆかりの峨眉山と四川省の石窟寺院の旅 8日間

仏教四大名山の一つ数えられる峨眉山、樂山大仏、安岳石窟寺院、中国三大石窟の敦煌・莫高窟、大同・雲崗、洛陽・龍門石窟と並び賞される大足石窟寺院群など、中国南西部の四川省にある仏教聖山と仏教美術の数々をじっくりと巡るコースです。

1	各地空港 ⇒ 成都 空路、成都へ(直行便または経由便) 【成都泊】
2	成都 → 夾江 → 峨眉山 中国仏教四大名山の一つ峨眉山へ 途中、夾江の千仏岩を見学します。 峨眉山内の寺院参拝など (華嚴寺、報国寺、伏虎寺、清音閣、万年寺など) 【峨眉山泊】
3	峨眉山 → 樂山 → 安岳 金頂よりご来光 樂山へ 樂山市内見学(樂山大仏、麻浩崖墓) 安岳へ 【安岳泊】
4	安岳 安岳及び周辺の寺院や石窟寺院を見学 (円悟、千仏寨、臥仏院) 【安岳泊】
5	安岳 → 石羊鎮 → 大足 大足へ 途中、石羊鎮にて茗山寺、華嚴洞、毘芦洞を見学 【大足泊】
6	大足 終日、大足郊外の石窟寺院を見学 (北山石窟、南山石窟、宝頂山石窟) 【大足泊】
7	大足 終日、大足郊外の石窟寺院を見学 (石篆山石窟、石門山石窟) 重慶へ 【重慶泊】
8	重慶 ⇒ 各地空港 空路、帰国の途へ(直行便または経由便) 着後、入国手続き、税関の後、解散

峨眉山(中国仏教四大名山)

普賢菩薩の霊場です。一番高い峰が万仏頂(標高3,098m)で、頂まで32の名刹が続いています。後漢時代から仏教施設の建設が始まり、南宋時代に最盛期を迎えました。現代の最大の寺院は、登山口に当たる報国寺で、明代の1615年に明光道人が創建したとされています。峨眉山全体が風景区に指定されており、岩山と樹海、雲海が織り成す神秘的な景観が古くから「仙境(仙人の住む場所)」と表される所以です。

一帯は聖地であるため、自然が護られ、約3,000種の植物と、絶滅危惧種を含む約2,000種の動物の宝庫でもあります。



峨眉山の風景



報国寺



華嚴寺

大足の石窟寺院群

成都から重慶に向かう途中に位置する大足は大足石刻のある街として有名です。西安や洛陽など中原が戦乱の世になり、文人や芸術家は平和な地を求めて蜀の国へと逃れてきました。そういった歴史の中で、華やかな仏教文化がこの地に開花し、敦煌の莫高窟、大同の雲崗石窟、洛陽の龍門石窟と並び称せられる北山、南山、宝頂山、石篆山、石門山を代表として、40数ヶ所もの石窟群が分布しています。唐代末期の892年から約300年経った南宋末期にかけて開窟されました。特に宝頂山石窟の全長31mにも及ぶ涅槃仏像が有名です。

樂山大仏

長江の支流の岷江、大渡河、青衣江が合流する地点にあり、近代以前に造られたものでは世界最大・最長の仏像であり石像です。高さは71mで、顔は100畳分あり、岩山を掘り、90年かけて造られました。当時、多くの大仏が国家によって造られたのに対して、樂山大仏は民衆の力で作られました。当時(713年頃)、樂山周辺では塩が大量に取れ、その成功を仏様に感謝したいという気運が高まったことと、塩を運ぶ岷江の水害を大仏の力で治めてもらおうという願いから建立されました。



樂山大仏



安岳石窟



大足石窟群